

那須烏山のまちづくり 山あげ祭と地域コミュニティ ～歴史・現状・課題～

那須烏山市観光協会事務局次長
金井町若衆団元筆頭世話人
山本盛宗

栃木県那須烏山市

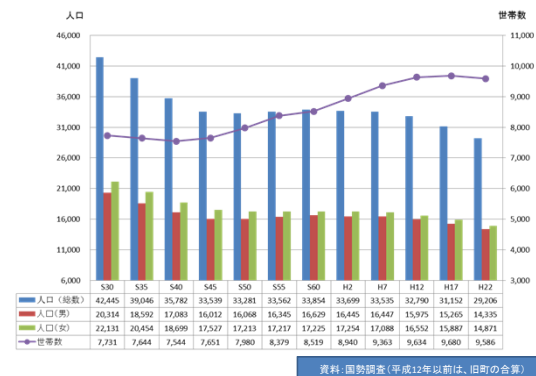


◆平成17年(2005年)10月1日に那須郡南那須町と同郡烏山町が合併し、那須烏山市が誕生。

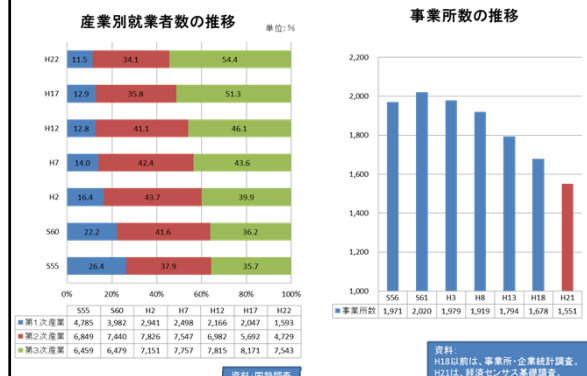
◆総面積 174.42km²(県全体の2.7%)

◆地勢 八溝山系に属し、那珂川が平野部を貫流し、那珂川右岸には丘陵地帯が形成され、丘陵を縫うように荒川や江川などの大小河川が貫流しています。この地帯に南那須市街地、烏山市街地が形成されています。那珂川左岸は、東部山間地帯となっており、那珂川県立自然公園に属する山間地と小河川で形成されています。

人口・世帯数の推移



産業の推移



山あげ祭



祭の歴史

時代背景	山あげ祭の歴史
室町時代	永禄3年(1560年) 一起源- 那須資胤(なすすけたね・当時の烏山城主)が疫病防除、五穀豊穡、天下泰平を祈願し、牛頭天王(ごずてんのう・すさのおのみこと)を大桶村から酒主村(いずれも現在の那須烏山市内)に勧請した。
	永禄6年(1563年) この年はじめて、牛頭天王社の祭礼を行う。
江戸時代	正保元年(1644年) 5町相談のうえ、操り人形、相撲、神楽などを奉納興業。これが「天王建」の最初といわれる。
	寛文7年 5町相談のうえ、祭礼は隔年に行なうこととし、祭礼当番町の順序を決める。①鍛冶町、②元田町、③荒町、④赤坂町、⑤中町の順。祭礼期日・6月20日、21日、22日
常磐津所作	天明7年
江戸中村座「荷門」初演	天保7年
	慶應元年(1865年) 疫病が町内に流行したため、牛頭天王御神輿が全町渡御する。

時代背景	山あげ祭の歴史	
明治時代	明治3年 (1870年)	牛頭天王社を八雲神社と改称する。
	明治15年 (1882年)	八雲神社、神輿を新造する。
	明治35年 (1902年)	鍛冶町より日野町が分町。6町での祭礼となる。
昭和時代	昭和34年 (1959年)	山あげ祭が栃木県の重要文化財に指定される。
	昭和38年 (1963年)	山あげ祭が国の重要民俗資料に選択される。
	昭和41年 (1966年)	山あげ祭の期日を「7月20日、21日、22日」から「8月20日、21日、22日」に変更。
	昭和44年 (1969年)	山あげ祭の期日を、7月25日、26日、27日に再度変更する。
	昭和54年 (1979年)	「山あげの行事」が国の重要無形民俗文化財の指定を受ける。
平成時代	平成9年 (1997年)	山あげ祭の期日を、「7月の第4土曜日を含む金・土・日曜日」に変更。

